

「くものいと」(関西クモ研究会機関誌), No.29, pp. 16-19 (2001年) から一部改変して転載.

クモの同定の手引き

ワシグモ科 Gnaphosidae (その2)

加 村 隆 英

エダイボグモ属 *Cladothela*

エダイボグモ *Cladothela boninensis* Kishida 1928 は小笠原諸島の固有種です. 岸田 (1928) は本種の出糸突起の一部が枝分かれているように見える点に注目しました. 本種においては, 出糸突起中対の背面部が大きく膨らんでいて, そこに多数の出糸管が分布しています. つまり, 本来の先端部に加えて, この膨らみがあるために, 全体として枝分かれているように見えるのです. ただし, 実際には, 「枝」と呼べるほど明瞭に突出しているわけではありません (図 1-2).

岸田はこの形質を本種に特有のものと考えました. しかし, 現在では, この形質はワシグモ科の他のいくつかのグループにも見られること, また, この形質は雌にだけ見られるもので, 雄の出糸突起中対はエダイボグモそのものをはじめ, いずれのグループにおいても単純に細長い形であることが分かっています.

さて, このエダイボグモがタイプ種になっているエダイボグモ属には, 今のところ, 日本産として5種が記録されています.

エダイボグモ属の特徴

本属のもっとも顕著な特徴は, 雄の触肢の腿節側面にひじょうに太い「かぎづめ」があることです (図 3). これはワシグモ科の他のグループにはまったく見られない際立った特徴です. したがって, 雄の成体であれば, この特徴だけで簡単に本属であることが分かります.

しかし, 雌や幼体の場合は, もう少し細かいところを見なければなりません. 上顎の後牙堤を見てください. ワシグモ科のほとんどのグループでは, 後牙堤に1本または数本の歯, あるいは, 特殊な形の突起があります. しかし, エダイボグモ属においては, 後牙堤には歯あるいは突起がまったくありません. 日本産ワシグモ科のなかで, 本属以外にこの特徴をもつのは, ホシジロトンビグモとタソガレトンビグモだけです. これら2種では, 腹部背面に図 4-5 のような白い斑紋があります. エダイボグモ属では, エダイボグモだけは腹部に図 6 のような斑紋がありますが, 他の4種では腹部に斑紋はありません. つまり, 以上をまとめると, 次のようになります.

エダイボグモ属をワシグモ科の他のグループと見分けるための検索

1. 上顎後牙堤に歯または突起がまったくない 2
- 上顎後牙堤に1本以上の歯または何らかの形の突起がある 他の諸属

- 2. 腹部背面に斑紋がある 3
- ー 腹部背面は一様に褐色で斑紋がない エダイボグモ属 (エダイボグモ以外)
- 3. 腹部の斑紋は図 4-5 のようである
- ホシジロトンビグモ または タソガレトンビグモ
- ー 腹部の斑紋は図 6 のようである エダイボグモ属 (エダイボグモのみ)

日本産の 5 種のうち、エダイボグモは小笠原諸島にだけ分布します。また、ハエミノチャクロワシグモ *Cladothela auster* Kamura 1997 は今のところ、沖縄県でのみ確認されています。ここでは、他の 3 種について、その同定のポイントを説明します。

チャクロワシグモ *Cladothela oculinotata* (Bösenberg & Strand 1906)

全体に暗赤褐色で、つややかな光沢があります。本種の特徴は、上顎の牙が扁平でひじょうに変わった形態をしていること (図 7-8) と、下顎に太短い毛が密生すること (図 9) です。また、雌の出糸突起中対の背面の膨らみには、図 2 のように多数 (少なくとも 10 個以上) の出糸管があります。体長は 6.0~8.5 mm。本州、四国、九州のほかには石垣島で採集されています。外雌器と雄の触肢は図 10-13。

ムナキワシグモ *Cladothela unciinsignita* (Bösenberg & Strand 1906)

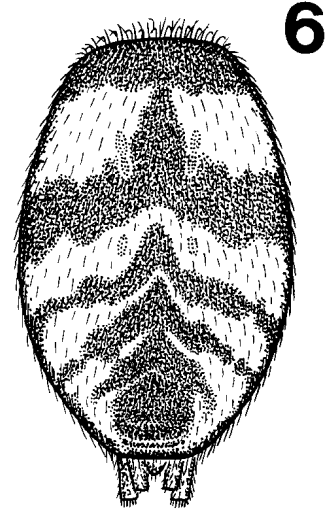
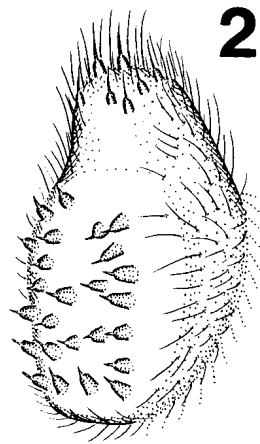
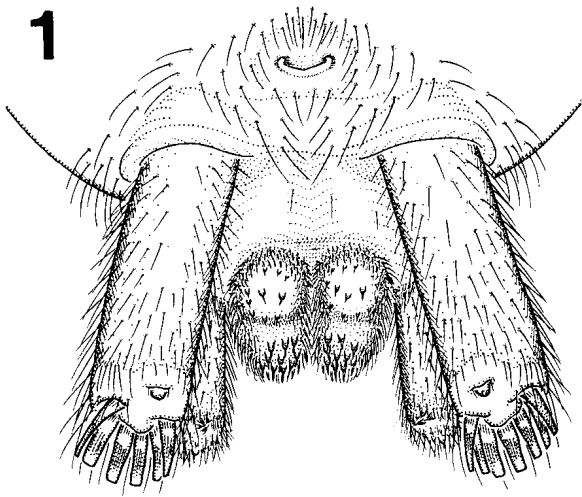
全体に前種に似ていますが、上顎の牙は普通 (扁平ではない) で、下顎に生えている毛も普通です (ただし、ときにやや太めの毛があることもありますが、前種のように密生することはありません)。雌の出糸突起中対の背面の膨らみに多数の出糸管がある点は前種と同様です。体長は 4.3~8.0 mm。既知の分布地は本州と九州です。外雌器と雄の触肢は図 14-16。

ヒメチャワシグモ *Cladothela parva* Kamura 1991

色彩は前の 2 種よりも明るいものが多いようです。個体によっては、ほとんど黄褐色のものもあります。上顎の牙と下顎に生えている毛は、いずれも普通です。雌の出糸突起中対の背面の膨らみには、出糸管が 4 個しかなく (図 17)、この点で前の 2 種とは異なります。体長は 4.6~5.5 mm。本州、四国、九州のほかには石垣島と西表島で採集されています。外雌器と雄の触肢は図 18-20。

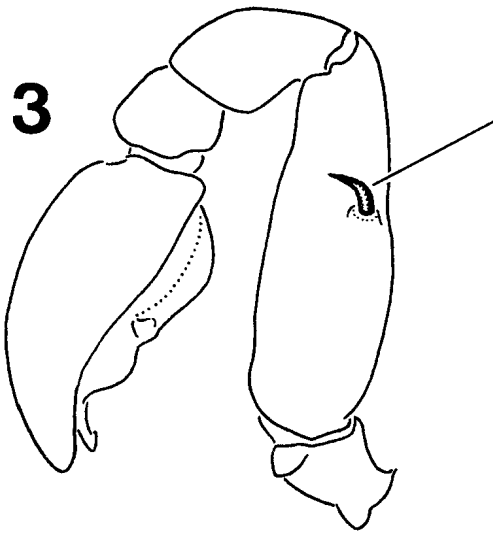
文献

岸田久吉, 1928. 蜘蛛類に就いて (1). 理学界, 26 (10) : 28-33.

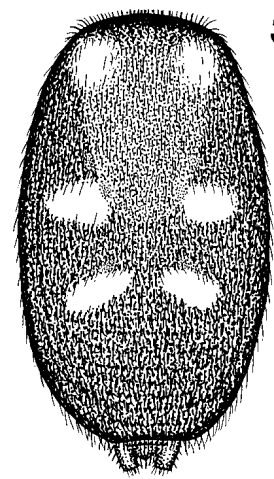
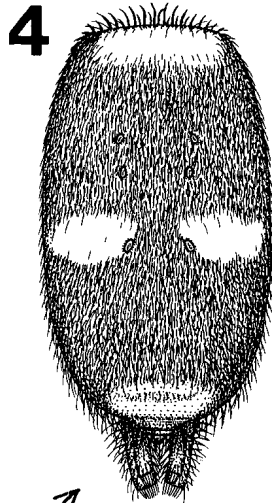


出糸突起中対(♀)

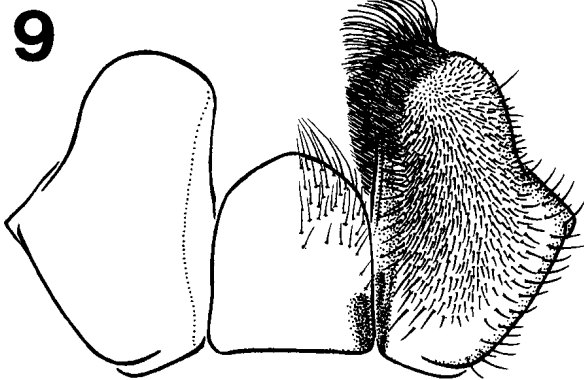
エダイボグモ



太いかぎづめ

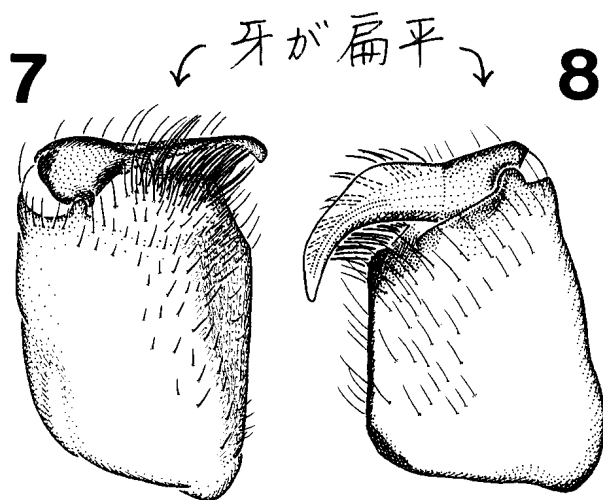


ホシジロトンビグモ
タソガレトンビグモ



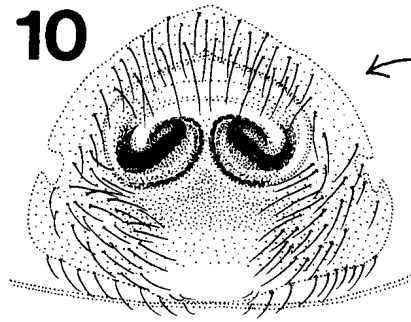
太短い毛が密生

チャクロワシグモ



牙が扁平

10



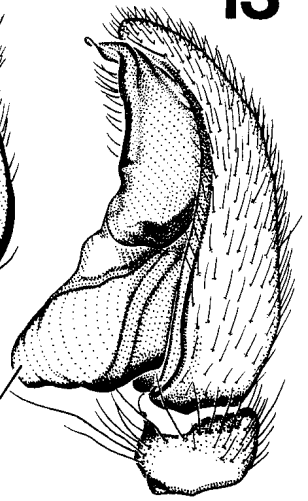
開口部の周辺は
巴状に黒く見える

栓子は細く、ほぼ“まっすぐ”

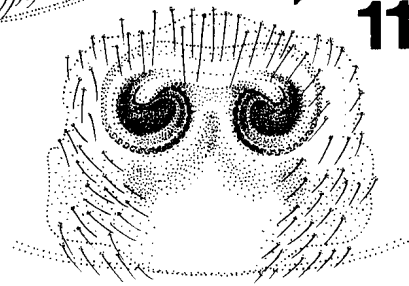
12



13



↑
個体による
変異あり →

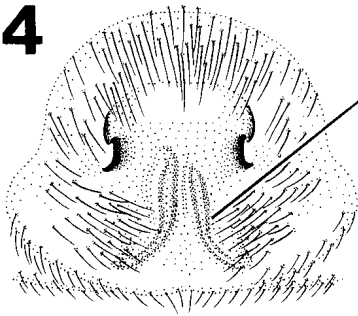


11

強く張り出す

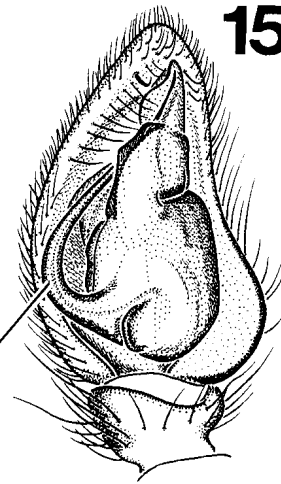
チャクロワシグモ

14

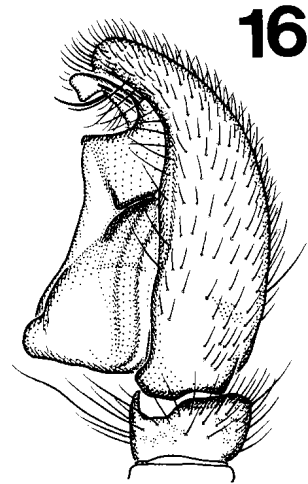


内部の管が透けて
見える
(ただし、不明瞭な
個体もある)

15



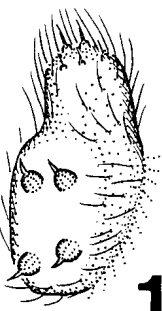
16



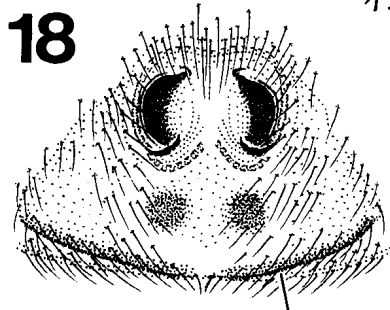
栓子はなめらかなカーブを描く

ムナキワシグモ

大きな出系管は4個だけ



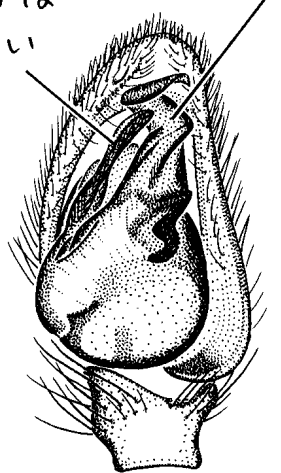
17



後縁部が盛り上がる

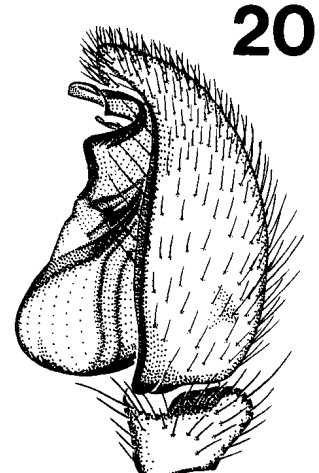
栓子は
太い

19



この突起が強く屈曲する

20



ヒメチャワシグモ